

研究計画

研究テーマ	金融危機の政治経済学
代表研究者名 (大学名)	中達啓示(立命館大学国際関係学部教授)
関係研究者名 (大学名)	古川彰(立命館大学経済学部教授) 中戸祐夫(立命館大学国際関係学部教授) 樋原伸彦(早稲田大学商学学術院准教授) 佐々田博教(立命館大学国際教育推進機構准教授) 下野寿子(北九州市立大学準教授) 山神進(立命館アジア太平洋大学アジア太平洋学部教授) 吉松秀孝(立命館アジア太平洋大学アジア太平洋学部教授) その他
<p>研究概要(背景・目的・意義・研究手法の説明を含む)</p> <p>現在進行中の米国発の金融危機をはじめ、日米に限っただけでも1930年代、1990年代、今回とエピソードが蓄積されてきたが、それらの金融危機の分析にあたっては、これまでは例えば credit crunch のマクロ的影響などの経済学的分析が主たるものであった。しかしながら、どのような政策、政治プロセス、制度、が金融危機を引き起こし、また金融危機発生後どのように対応したのか、という諸点についての政治経済学(political economy)の視座からの包括的分析は、これまで限られていたように見える。(実際、今回の米国における政策対応も、日本の1990年代の経験があったにもかかわらず、必ずしも一貫したものではなかった。)本研究ではこのギャップを埋めることを目指す。</p> <p>本研究では、少なくとも1930年代、1990年代、今回、の日米発の金融危機のエピソードを、参加研究者の多角的な視点から分析する。具体的な研究課題としては、例えば、以下のようなものが考えられる。1)金融危機の発生を招いた制度の問題。金融監督行政、金融機関のリスク管理、等に関する諸問題。2)金融危機発生後の政策対応を決める政治プロセスの問題。および公的資金注入などの政策対応の事後的なパフォーマンス評価、中長期的な政治経済レジームへの影響なども比較分析。3)金融危機の背景としてのグローバル・インバランスと制度のリデザイン。金融危機の背後には必ずマクロ的なインバランスが存在する。今回の金融危機においても、米国と産油国・新興国・日本等の間に、ファイナンスと貿易の両面で大きなインバランスがあり、何らかの新たな制度デザインが求められている。(特にアジアにおいては中国の台頭への対応として、新たな地域システムが必要となる可能性が高い。)</p> <p>また、経済政治条件の違う発展途上国と先進国では、金融危機の背景及び発生後の政治的対応、経済的影響が異なってくる。例えば、90年代のアジア金融危機の事例と日米の事例の比較分析なども行っていきたい。</p>	
<p>期間と実施活動報告</p> <p>まずは上記の立命館大学の教員を中心に研究グループを立ち上げることが出来た。</p> <p>これからも立命館内外において順次参加研究者を募っていく予定である。しかしもとより日米研</p>	

究インスティテュートが五大学による共同運営を旨としているため、研究テーマに関心を持ち賛同いただける他の4大学の研究者の参加を大いに歓迎する。

研究会実施状況

第一回 7月31日 中達啓示 "Diplomacy of East Asian Financial Integration"

第二回 11月27日 樋原伸彦 "Credit Crunch and Credit Misallocation in Banking Crises: Will Public Money Work as an Effective Remedy?"

第三回 12月4日 佐々田博教 "Lessons from the Past: Japan's reaction to the Great Depression."

第四回 2010年3月5日 古川彰 "Imbalance of the US economy -- high potential growth and low savings"

第五回 3月19日 下野寿子 「対外開放の多様な実態：廈門はなぜ取り残されたのか」
9月22-23日の両日ワシントンDCで開催された日米研究インスティテュート第一回シンポに立命からは樋原、佐々田の二名の研究者が参加した。

立命館大学はアジア太平洋各国の五大学と六大学シンポを毎年開催している。本年は10月15-16日にかけてカナダトロント大学でGLOBAL CRISIS/GLOBAL RESEARCH: INTERNATIONAL PERSPECTIVES ON ECONOMIC TURMOILをテーマに開催され、立命から中戸、樋原、佐々田の三名が参加した。

2010年2月1-2日ワシントンでの日米研究インスティテュート第二回シンポに立命からは中達、佐々田の二名の研究者が参加した。

備考